



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

『第10回森林塾報告 テーマ「市場、木造住宅見学」 今がチャンスだ木造一戸建て』

出発前に保科先生の「厳しい日本の林業の現状を肌で感じて来て下さい」というあいさつ。今回は楽しい「きのこ狩り」だったはずなのに

だか知らない間に「市場と木造住宅の見学」に変わって出て鼻をくじかれた気分。それに追い打ちをかける先生のこのあいさつ、それにはつき

りしない空模様。ウーン何となくちよっと気の重たい一日になるかと思ったのも、ほんの

ありがとうございました。では十日以内に御入金お願いします」という所長さんが指し値を明かしてくれましたので表にしてみました。例えば7番種、一般的なヒノキの柱材なのですが指し値で換算すると丸太一本三千五百円弱。やっぱり材木は安いなあ、というのを実感しました。



十番までの極山を見て回る目は結構真剣

続いて楽しみにしていた模擬入札。土場での説明を伺った後、アカマツ、ヒノキ、クリ、サワラなどの十極(はい丸太の山)を見てまわり、各自ほしい値段を札に書いて出しました。すべての極に札が入り、落札。高値落札

極番	品柄、規格、末口	本数	落札業者	落札価格(千円)	指し値(千円)
1	ひのき 4m中 20-22	10本	UZU FACTORY 様	50	35
2	ひのき 4m元 34	1	早川木材 様	250	200
3	あかまつ 8m 22-26	3	段戸林産(鈴木) 様	49	27
4	くり 3m 42	1	松下工務店 様	110	45
5	あかまつ材 4m 22-26	35	奥本建築 様	30	24
6	あかまつ 4m 18-24	45	山口製材 様	20	17
7	ひのき中 3m 16-18	34	池田ホーム 様	74	34
8	あかまつ 2m元 30-36	13	森産業 様	30	13
9	くり 4m 16-20	5	池田ホーム 様	83	55
10	さわら 4m 16-26	10	奥本建築 様	70	18



入札会場の風景、大盛況です。

普通、一戸建てで木造住宅といわれるものには平均して一坪あたり0.5立方メートル程度の製材品が使われているそうです。丸太換算で倍にすると1立方メートルで、40坪の建物なら40立方メートルの丸太で足りません。単価4万円のヒノキを使っても百六十万円の木代金(原木の代金です)もし家を建てる予定のある方はしっかり警戒に木材を使ってみませんか。それほど割高になるものでもありません。



グラッブルを自分の手のように使ってトラックに積む



長年山師相手のお仕事、大野田所長は賞禄十分

そんな警戒な家を午後二軒見せてもらいました。まずは長谷村の日当たりの良い斜面に建築中の芳賀さんのお宅。わずかにベイマツを使っているがほとんどは国産材です、という有賀製材さんの一級建築士、竹内さんの説明。一階だけでも二十七坪、二階は十坪で、そのほかに吹き抜けや屋根裏の収納可のスペースもあり、とても豪華に感じる木造のお宅です。大工の矢沢さんも駆けつけてくれて、丁寧に説明して下さいました。床下張りにも12mm、床は18mmの本ガネ、落とし込みの壁板は木裏を外側にして雨水がしみ込みにくくしてあるなど、説明を聞くところ、なるほどという工夫がいっぱいです。信州カラマツをふんだんに使っていない苦労が色々ありそうです。



「どれくらい欲しいか」を数字にするのは難しい



入札中です。カンニングはルール違反です



プロの手際、あっという間に高値札を捜し出す

た。

最後は完成して半年以上経った浜田邸。半年間住んでみての満足度を久美子さんにお聞きしたら、「100%」。障子が開かなくなれば削ればいいし、そんなことは当然覚悟していたことで、家と住人との少しずつお互いに慣れてきました。多くの種類の木に囲まれた落ち着いた雰囲気のお宅です。二年前に2x4で新築したスタッフ坪木「ちよつと早まったかな。」皆さん共通した感想かもしれません。

急遽予定変更の無理なお願いを快諾してくれた県森連大野田所長さん、有賀製材所の竹内さん、大工の矢沢さん、芳賀さん、浜田さん、ありがとうございます。ございました。



今回の内容

第10回 9月30日(土) 市場、木造住宅の見学

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。第10回はきのこ狩りの予定でしたが、この時期でも最低気温が15度近くもあり、雨も少なくほとんどきのこのらしいきのこが出ていません。勝手ながら急遽予定を変更して見学と入れ替えました。メールを持つている皆さんには連絡ができたのですが、それ以外の皆さんは当日知ることになりました。ご了承ください。車に分乗して伊那市東春近の長野県森林組合連合会伊那木材センターへ

9時20分 木材センター 木材市場の概要、最近の市況の推移、有利な採材方法などの説明をもらう。土場では20日の市で落札されたアカマツの長材を積み込むトラック、5日の市に出品する材を極積みする職員の田口さん、柴さんが操るフォークリフト。小屋横で伐採



左官さんがはいり完成近い芳賀邸、ストーブに火が入る日も！



外壁は40mmの落とし込み、真冬でも十分耐えられる



浜田邸の2回吹きぬけから。多人数で押し掛けても大丈夫ですね

されたアカマツ4m材も15立方ほどこの市にかけられる予定です。落札されるかな？

11時 模擬入札開始 もし機会があれば実際の入札を見せてもらおうのもおもしろいかと思います
11時40分 小雨になってしまったのでそのまま入札

3時 伊那に戻り、ますみヶ丘浜田邸にお邪魔する 樹齢二百年のタモ材の無垢のテーブル、トチとイタヤとクワとチャンチンの食堂椅子。15種類の広葉樹でできたトイレのドア。いいですねー。
4時 小屋に戻って解散

会場をお借りして昼食
12時30分 木材センター出発
「道の駅南アルプス村」經由 長谷村溝口 芳賀邸建築現場へ 有賀製材所の竹内さん、矢沢大工さんの説明を聞く。外壁は芳賀さんご自分で塗装されたとのこと、また薪ストーブ炉台の壁用にと三峰川の天然石をこれもお自分でたくさん集めて置いてありました。楽しみですね

参加者/池田さん、稲垣(久)さん、稲垣(裕)さん、宇津さん、梅木さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、河尻さん、神田さん、坂田さん、坂本さん、佐藤さん、鈴木(敏)さん、須藤さん、長島さん、芳賀さん、松下さん、皆川さん、森さん、山口(亜)さん、横井さん、奥本さん、鈴木(章)さん、村谷さん、山口(み)さん、大野さん、竹内さん

講師/島崎先生

スタッフ/後藤、中村、藤原、宮崎、坪木、早川



リレー通信

山への想い 片岡 浩



わたしが「仕事を辞めて山仕事をしたい」というと、聞いた人は「なんで、何か結びつかへんなあ」と決まって言う。自分でもまさか職業として山仕事をするようになると思いきや、他人はなおさらである。

先日、森林組合、林業事業者への就職活動の一環として、岐阜県主催の農林業生活体験研修に参加した。8月未の6日間、林業事業者のもとにホームステイをしながら林業の体験研修を行うもので、その中心となったのは作業の現場に入って行う3日間の作業研修であった。これに参

加したため、楽しみにしていた森林塾第8回の伐出の回を欠席せざるを得なかった。その時に感じたことがそのまま今の私の山・山仕事に対する気持ちに他ならないので、ここに記すことにしたい。

まず第一に、山の悲惨な状況を目の当たりにし、何とかしなければと思ったことである。

私が行ったのは国有林の除伐作業(請負)が主であったが、戦後の植林後の下刈りから40数年間一度も人の手が入っていない針葉樹(松、杉)の山であり、乱立する広葉樹や笹のため足を踏み入れることさえ困難な荒れ果てた山であった。

当然間伐もしていないため弱々しく細い木ばかりであり、40年の年輪を感じることもできる立派な木はほとんどみられなかった。指導をしていただいた作業班の方に聞くと、林道から入り易いところはともかく、奥の方へいけば

どこも同じような状況であるとのことであった。その際、たまたま来ていた営林局の森林官(正式な名称、肩書きは心許ないが...)と話しをする機会を得たが、除伐、間伐等管理すべき国有林は大変多いが、予算上の問題のほか、1人の森林官で担当す

る範囲が許容量を超えており適切な管理ができない状況であるとのことであった。

しかし森林官の仕事の状況、困難性等初心者の私に押し量れないところがあるとは思いますが、会って話した印象から言うと、山に対する愛着のようなものを感じることはあっても、山に対する「情熱」を感じることはできなかった。森林を取り巻く環境が悪化している現在、森林という市民の財産を管理するには、

そのための人員等の確保とともに、それに携わる人が「森林を守り育てよう」とする「情熱」を持つことが最低限必要ではないかと思う。

第二に、後継者不足が深刻で、今が技術を承継する最後のチャンスではないかと思えること。

私が入ったのは民間の事業体で、作業班は八名。入社二年度程度の三十代前半のE・Uターナー者三名のほかは六十五歳以上の「長老」で、これも大体どこも同じような状況であるとのことであった。世代間にぽっかり穴が空いたようになっているとともに、職人氣質で「技術は教えられない」のではなく、見て覚えるもの」との意識が強いため、技術を承継することが困難な状況となっている。しかしそのような状況のもと、逆にあと十年もすると「長老」の大多

数が辞めていくことが予想されるため、今が最後のチャンスでもあり、今こそ森林を守る技術を受け継ぎ、そして次代にも引き継いでいきたいと思う。

第三に、山仕事を一生の仕事として、究めていきたいと思うこと。

森林塾で大まかな作業については経験済みであったが、背のたけを超える鬱蒼とした密林に道を切り開いていくようにして行う除伐作業(誇張ではありません)は、高い気温、湿度及び熱を発生する草刈り機のためもあり、かなり体にこたえた。しかし、作業を終え一休みの時に飲む水の旨さ、寝ころぶ体を吹き抜ける風の心地よさは何にも代え難いものであった。

今は、一日中山へ入りヘトヘトになるまで働いてみたいと強く思っている。そして、山仕事という未知の領域の中で自分自身が何を感じ、今後どう行動していくのかとても楽しみにしているところである。今はただ山仕事にどっぷり漬かり、いろんな技術、知識を身につけていきたい。

最後に森林塾にひとこと。

森林塾には、山仕事の本当の素晴らしさ、楽しさを教えていただき、大変感謝しています。カリキュラムそのものというより、塾に関わる「人」が素晴らしく、これからも

ずっと大事にしたいと思えます。その意味でお願いしたいことがあるのですが、毎年の新しい人を対象としたカリキュラムだけでなく、過去に受講した人、卒業生を対象とした取り組みを年に2回でも3回でもいいから開催してもらえればと思います。

1年間の受講を通して得たものを自分のものとし、さらに発展させていくためにも、主な作業の復習や情報交換、交流をできるような機会を是非設けていただきたいと思うものです。

リレー通信

近江八景ならぬ 近江超近景 片岡 美樹



私達夫婦は滋賀県に住んでいる。京都、大阪に比べて地味なせいも、他の地方の方々には今一つ馴染みのない県のようにあるが、私はかなり気に入って暮らしている。以前は京都市内に住んでいたが結婚半年後に大津市のアパートに引っ越してきた。今思うところから、より自然に近い

いが育つてきつつあったのかも知れない。

滋賀県には何と云っても琵琶湖がある。少なくとも琵琶湖の上には町がない。大空がある。この空間だけは永遠に琵琶湖が守ってくれるであろう安心感がある。家の窓から、そして湖畔を歩きながら湖を眺めるにつけ、いとおいさと感謝の気持ちが湧いてくるのだ。

私達のアパートは湖を東に見下ろす高台に建っている。付近には有名な三井寺や観光船の発着場である浜大津があり、大津の中心街にも近い。古くからの集落も残っているが、今となっては決して田舎とは言えないこの地に琵琶湖だけではなく身近に楽しめる自然が意外と残されている。アパートから見ると琵琶湖、そして西側は実は比叡山である。豊かな山とは言えないかもしれないが、結構、様々な野生生物が生息しているものだ。

私は恥ずかしながら昆虫が大の苦手であった。滋賀に住むまでは特に激しく恐れていた。しかしなせ、裏が山だけに、そしてアパートの玄関前につけられている蛍光灯の青白い光に引き寄せられて、夏から秋にかけて、これでもかという程、虫さんが押し付けてくる。これまでに見たこともないような不思議な形を



したのもいる。いちいち怖がっているのは夏場 玄関から外に出られないことになる。私はだんだんとこの環境に慣らされていった。今では虫恐怖症もかなり改善され喜んでる次第である。

アパートの裏山にはお猿さんも住んでいる。時々、いや、かなり頻繁にこの住宅地にまで下りてくる。山中に食物が不足しているのだろうか、このあたりの家庭菜園はお猿さんのお食事処と化している。庭のない我が家もプランターで細々と、しかしそれだけに食卓に上がる日を心待ちに野菜を作っている。ある朝起きると、枝豆が枝だけになってる。思わず目をこすった。まさに前日の夕方、そろそろ明日あたり収穫してピールのおつまみに…とほくそ笑んでいたところなのだ。悔しいというよりもあまりに見事な、芸術的とも言える横取りのタイムミングに感心し、唸ってしまった私。犯人は誰だ？この

絶妙なタイムミングのとり方に加え、立ちつくす私の足元に散らかっていた生のお豆さんの莢からして恐らく、人間ではないであろう。目撃してないので、お猿さん、もしも冤罪だったらお許しを。でも真つ赤に熟れた食べ頃のトマトもさぞや美味しかったことでしょうね。

裏山には栗の木も多く生えている。そろそろ栗の実も食べ頃となって、今年もまた裏山は大変な賑わいを見せることであろう。野生の生き物たちで、お猿さんはもちろんのこと、夜になると猪さんも現れる様子。裏山に開いた台所の窓越しにこそそこそと音が聞こえる。台所の電気を消してじつと目を凝らすと、月明かりに白っぽく浮かび上がる大きな背中。横向きに長い背中のライン、そしてあの激しい息遣いからして恐らく、人間ではないであろう。(懐中電灯もつけてないみたいやし…) それにしても、裏山に

て、生き物たちによって繰り広げられるこんなシーンにアパートの他の住人は以外にもまるで気付いていないよつである。多少なりとも興味を持って目をやらないければ、ほんの近くのものも見過すことになる。裏山の少し高い位置に春には山桜

が、そしてまさに今、萩の花が見事に咲き誇っていることに気付いている人がどれくらいいるだろうか。

私はここ数年、趣味で日本画を描いている。このことも身近な自然に目を向けるきっかけになったと思う。日本画の絵の具の持つ色合いは、描くものを日本の自然に素直に向かわせる力を有していると思う。我が家の裏山(すっかり自分の山のように思っている)には絵を描く上でも随分お世話になっている。私達夫婦は裏山を散策することも多い。歩くこと自体が楽しい上に、そこそこ絵の題材を見つけることが出来る。四季折々の花々、秋ならば足元に積もった色付いた木の葉、よく見ると沢蟹がいたりもする。ここぞという雄大な風景よりも、私はこんな小さな自然の一場面を切り取って絵にするのが好きになった。

先日、用あつて京都の繁華街を歩いた…が、歩いていら

れなかつた。用事を済ますと一目散に滋賀に逃げ帰った。滋賀の地は私の自然への思いをゆっくりと育んでくれた。森林塾への参加についてもきつと深いところで後押ししてくれていたにちがいない。この地に越してこなければ心の一部を麻痺させたまま都会暮らしを続けていたかもしれない。今は、この「育ての土地」に感謝しつつ、もつと田舎で、もつと地に足のついた生活が出来る場所を探している。新たな場所で自然の営みに積極的に結びつく中、衣食住をとらえ直していきたくも思っている。

その時には、プランターとちごて畑で枝豆作るので、ねえお猿さん、少しは私ら人間に残しておいてくれへんやろか。今からお願ひしときます。

コラム

先日じよんのび藤原が高鳥谷山で樹木分類ハイクをガイドしました。生協の環境委員会の「秋の野山散策」企画で参加者は三十〜五十代の女性十八名。車で頂上近くまで上がり、例の凶鑑を使って検索しながら下るといふプランです。特に森林に興味を持っていてる人というわけではないので、検索を楽しんでもらえるかちよつと心配だったのですが、皆さん熱心に答えを探してくれて一安心。(因みに問題はイタヤカエデ、「コナラ、ミズナラ、ホウ、タラノキ、オニグルミ」とはいえ、野生のホップ(リースに使える)とアケビを探りまくったときの熱心さにはかないませんでしたがね。秋は実や冬芽もチエックできる、春とは又一味違う分類ハイクが出来ます。きのこ紅葉、山の冠雪

立ち寄り情報

「OLIVE三輪」
エスニック自然食・さんざーら (0265-82-3724)
 「心と身体のみがえり」がテーマ。無添加の食材や有機野菜を使っているので安心。主人の佐倉さんがゆっくり作っているのが急いでいる人には不向き。佐倉さんはインドで音楽修行した人、以前二階のスペースでタブラーの演奏を聴く機会があったのですが、脳幹に染み渡るよつな、いわゆる「癒し」の空間でした。満月の晩にはコンサートも開かれます。臨時休業も多いので確認して。広域農道の駒ヶ根と飯島の境にある橋の手前(駒ヶ根側)に小さな看板、そこを入れて少し走った所の木造の建物ですが、わかりにくいのでじよんのびまで。【OLIVE三輪】

〜からお願い

来年四月から住む家を探しています。伊那谷、その周辺で木工作业、田畑の出来る借家をお心当たりの方は、ご連絡下さい。(古くても不便なところでもOK、安ければなおうれしい。)

鈴木夫婦 0264-52-2231

一緒にいかが

一年生藤本智さん企画「樹木観察 山歩きの日」10月

15日(日曜日)・森林塾の翌日です)小黒川溪谷から信州大演習林コースの散策。できれば中央アルプスの稜線まで行くつもりです。大樽小屋までなら片道3〜4時間。どなたでも一緒にどうぞとのこと。14日に藤本さんまで。きつともう紅葉が始まっている頃です。

おわりに

今年はずんずんと暖かい秋で、一日の日曜日久しぶりに朝少し寒かったので薪ストーブをつけたのですが、すぐに陽が出てきて窓を全開の状態でした。我が家の薪はほとんどがアカマツの間伐材。市場にも出せない太さのものや曲がり材です。アカマツ薪は火力は強いものの火持ちが悪く、高級ストーブをお持ちの方には敬遠され気味ですが、信州にはカラマツと並んでふんだんにある資源。有効利用したいものです。スタッフ佐藤が薪づくり承っています。そろそろシーズン・イン、一冬確保できていますか？まだの方は佐藤まで(0265-82-3441)



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
 TEL 0265-70-7065
 FAX 0265-70-7994
 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
 mi-tsuboki@koanet.co.jp
 携帯:0902-53-26375 (開催日)
 H.P. http://www.koanet.co.jp